

▼昨年7月の中国・九州北部豪雨
による市内の被害



●特集 ● 梅雨前に ☒ 再チェック

豪雨への備え万全ですか？

記録的な大雨によって、市内では初めての避難勧告を発令し、89世帯176人が指定場所へ避難されたのは昨年7月のこと。これから梅雨に入り、大雨や集中豪雨が発生すると、洪水や土砂災害などが心配です。日頃から防災情報の入手や非常時の持出品などできる備えを行い、家庭や地域でも避難場所や避難経路などを確認しておきましょう。

□ 洪水ハザードマップの確認

多久市では、平成20年9月に洪水ハザードマップ（保存版）を作成し、全市帯へ配布しています。

地図には、100年に一度の大雨で、河川が決壊した場合、浸水被害がどうなるかを表し、また、土砂災害の危険箇所なども表しています。自宅はどうかを確認し、避難場所や要援護者施設なども確認しておいてください。



▶市ホームページでも確認、ダウンロードできます。

□ 家族や地域で話し合い

いざという時、あわてず避難できるように安全ルートの確認や、離ればなれになった時の連絡の取り方などを、家族や地域で決めておきましょう。

□ 非常持出品の準備・点検

非常用食料、飲料水、ラジオ、懐中電灯などの非常持出品を両手が見えるリュックサックなどにまとめ、いつでも持ち出せる場所に保管しておきましょう。

▶5月16日、土のうを作る北多久分団。市内の消防団では、雨季前に詰め替えや補充作成などで約4000袋を完備しており、昨年7月の集中豪雨では、2500袋使用し、応急措置を行いました。

